

平成20年度 研究論文

研究主題

自ら学び続ける授業の創造Ⅲ
～学ぶ意欲を高める学習指導～

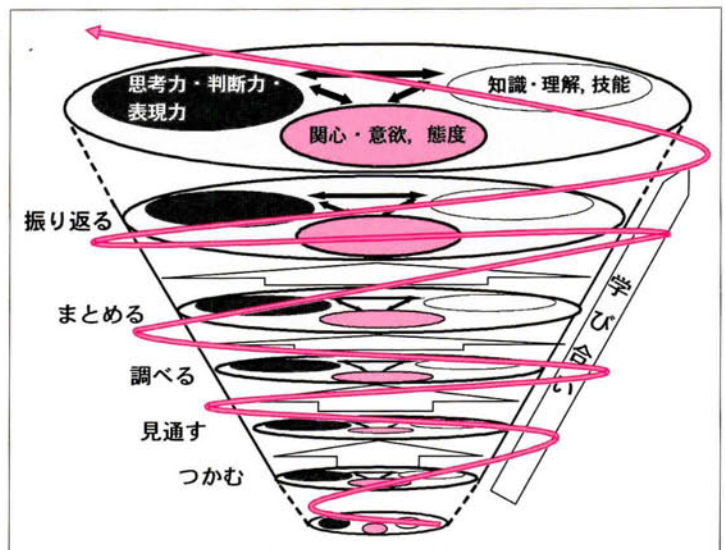
I 研究の立場

1 研究の歩み

わたしたちは、平成15年度から3年間「わかる・できる」喜びや楽しさを味わう授業の創造という研究主題の下、子どもの思考力・判断力・表現力の発達特性を基にした、学習内容の設定の在り方を研究してきた。その研究の成果として、多くの子どもが新しいことを知りたいと思ったり、分かる・できるときにうれしいと思ったりする知的な好奇心などを高めることができた。また、教師自身も「わかる・できる授業を展開したい。」と強く思い、学習内容の設定に努めてきた。

しかしながら、本校の子どもたちの中に、自ら学ぼうとする意欲が十分に高まっていない状況が見られた。そこには、子ども自身の課題として、積極的に身に付いたことを次の単元・題材に生かそうとしなかったり、与えられた課題に対しては精一杯取り組むが自分で学びを構築しようとしなかったりすることがあった。また、教師の課題として、学習内容、指導方法によって、子どもたちに学ぶ喜びを味わわせていたかという点も十分ではないということもあった。

そこで、これまでの学習内容設定の考え方を踏襲しつつ、子ども自身が、自ら学ぶ意欲を高め、必要があると考えた。これらのことから、自ら学び続ける子どもの育成を目指して平成



【図1 自ら学び続ける子どもの姿と三つの培いたい力の関係】

18年度から「自ら学び続ける授業の創造」を研究テーマに研究、実践を繰り返してきた。

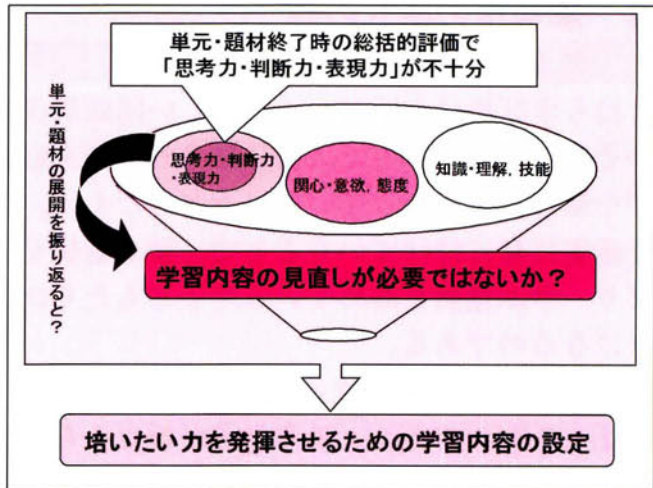
1年次の研究では、自ら学び続ける授業づくりの基本的な考え方を明確にし、自ら学び続ける子どもの姿と三つの培いたい力の関係を図1のようにとらえ、自ら学び続ける姿とは、三つの培いたい力が高まっていく状態であると定義付けた。

さらに、三つの培う力と中央教育審議会答申（H20.1.17）に出された学力の重要な要素との関連を表1のように再度、見直したところ、学力のとらえ方は同じ方向性であることも明らかになった。

【表1 本校の三つの培いたい力の考え方と中教審の考え方との関係】

本校の三つの培いたい力の考え方	中教審で出された学力の重要な要素
「関心・意欲、態度」 対象や事象への関心や学ぶ意欲、結果として形成された態度等のこと。方向目標としての要素がある。	「学習意欲」 望ましい方向に情意が高まった場合に現れる兆候である。 (H19.6.25 中教審教育課程部会長 梶田による)
「思考力・判断力・表現力」 既存の情報や得た知識・技能を駆使して、自分の考えを作り出しながら自らの力で課題を解決していく力のこと。比較・関連付けや数量化・モデル化等。	「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」 得た知識・技能を駆使し、活用する力のことである。
「知識・理解、技能」 学習等を通し、得た事実に関する認識やそれらを構造的に把握すること。事象や対象を意識的に操作する力としての技能も含む。	「基礎的・基本的な知識・技能の習得」 社会や生活に活用できる知識・技能であり、従来の知識・理解と技能としての表現・処理を分離しないものである。

2年次の研究では、子どもの実態や実践上の課題を基に、三つの培いたい力の関連から、不足していると考えられる培う力を明確にし、その培いたい力を確かに発揮させるための学習内容を見直す着眼点を各教科等で設定した。(※図2は、「思考力・判断力・表現力」が不十分と見取った際の例)そして、設定した着眼点を基に、1年次に設定した学習内容の見直しをすることができた。また、培いたい力を見取るための基本的な評価の考え方を構築した。特に、子ども自身が発達段階に応じて段階的に自己評価する力を高めていけるような組織的な取組の下、各教科等の特質を生かした自己評価方法の具体化を行ったのである。



【図2 培う力の明確化による学習内容の見直し】

2 本年度の研究の方向

これまでの研究を通して、実践してきた領域や単元・題材以外の学習内容の見直しや、学習指導要領改訂に伴い、各教科等で学習内容の重点化や新設が求められている単元・題材の学習内容の見直しが課題となった。また、三つの培いたい力を確実に発揮させるための指導方法の充実も課題となった。

そこで、本年度は、これまでの目標研究（子どもの姿の具現化）、学習内容研究（研究2年次の成果から、観点を明確にした見直し）も継続しながら、学習内容を子どもたちに確実に定着させるための指導方法に焦点を当てて研究を進めていくことにした。

研究計画			
	1年目	2年目	3年目
子どもの姿			研究のまとめと授業プラン作成
学習内容			
指導方法			

【図3 本シリーズの研究計画】

わたしたちは、これまで、自ら学び続ける姿を表出させるためには、三つの培いたい力の相互の関連性のみに着目してきた。しかし、それだけでなく、子どもが自ら学ぼうとする意欲を高めることで、三つの培いたい力をこれまで以上に発揮させることができると考えたのである。そして、そのためには、三つの培いたい力の原動力となっている学ぶ意欲に着目し、学習内容の見直しや指導方法の具体化等を行っていく必要があると考えた。

以上のことから、これまでの研究を基にした授業実践を振り返り、その成果と課題を踏まえ、本年度は、「自ら学び続ける授業の創造」の研究のまとめをしていく。

そこで、本年度は以下のようなテーマを設定し、自ら学び続ける姿をよりよく表出させるための授業づくりを目指し、学習指導の在り方を中心に研究を進めていくことにした。

自ら学び続ける授業の創造Ⅲ ～学ぶ意欲を高める学習指導～